



私の年度の最後の月がやって来ました。

さて、6月はロータリー親睦活動月間（Rotary Fellowships Month）です。ロータリーはさまざまな国や文化から同じ関心事を分かち合う会員が集まるロータリー親睦グループを通じて世界中に広められた「親睦」という概念を土台としています。このロータリー親睦活動によって、会員は生涯にわたる友情を築くだけでなく、自らの関心を保ち、活動への意欲を一層高めながらロータリーに積極的に関わっていくことができます。スポーツ、趣味、職業上の関心をはじめ、幅広い職業や趣味を網羅したロータリー親睦活動は100団体近くにのぼり、そのすべてが国際的な親睦、友好、奉仕を深める役目を果たしています。ここでは同好のロータリアンが特定の関心に対する情熱を分かち合うだけでなく、数多くの親睦グループ・メンバーが自らの趣味や技能を生かして他の人々への奉仕を行っています。例えば、カヌーを楽しむロータリアンの国際親睦グループは汚染された川の清掃を行ったり、コンピューター・ユーザーであるロータリアンの国際親睦グループは電子メディアの使い方についてロータリアンや地元の人々のために研修会を行っています。また「ジッパー・クラブ」と名乗る心臓疾患を克服したロータリアンの国際親睦グループ・メンバーは、心臓疾患を持つ恵まれない子供たちの命を救う手術を提供しています。ロータリー親睦活動は、エスペラント語に関心を持つロータリアンが集まったことをきっかけに、1928年に非公式に始まりました。1947年にはボート好きのロータリアンのグループが、自分たちの船にロータリーの旗を掲げ、自らをロータリアンの国際ヨット親睦グループと名乗り始めました。現在、最も長く継続して活動を行っているのがこのヨット親睦グループです。ロータリー親睦活動の範囲は月日を経て変化してきましたが、今日でも変わ

らぬその目的は、友好の下にロータリアンを結び付け、各々が楽しみとするレクリエーションまたは職業的活動の場を提供することです。

“ロータリー親睦活動要覧”よりさらに、大谷透パスト・ガバナーは2009～2010ガバナー月信6月号に次のように述べておられます。

「Fellowships Month」が年度末の6月に当てられた理由を考えてみました。我々はクラブで奉仕活動を行い、達成感を持って気分良く終了できた場合、会員相互の人間関係は明らかによくなります。しかし、もし奉仕作業の過程で意見の不一致から会員間に感情の縫れが生じたり、一部の会員の仕事が十分評価されずに不満が生じたならば、たとえその奉仕活動がどんなに愛に満ち、賞賛や感謝を受けたものであっても、ロータリーの評価基準からいうと成功とはいえません。ロータリーの特別な集会で、いつも「手に手つないで」を歌って終わるのも、最後に仲よく友情を大切にしようとの思いからです。

クラブ内に親友をつくるためのツールに趣味の会があります。各クラブに夫々、野球、ゴルフ、囲碁、麻雀、コーラス等の同好会があり、中には地区レベル、全国レベルで交わりを深めているものもあります。このような親睦をとりもつ会のお世話は立派な奉仕の業ですからクラブ奉仕といえます。恵まれない人々を助けるという要素が入らないために奉仕という言葉を使うのに抵抗を感じる人がいるかもしれませんが、交友の絆を強めるための労力は立派な奉仕です。同好会の交わりからその中に人格的な交友関係（親友）が育まれる事をロータリーは期待しているのです。

以上、親睦活動月間について改めて考える良い機会を与えていただきました。私の年度の締めくくりとして多くのロータリアンと親睦活動を通じて更なる友人を増やしていこうではありませんか!!